

1、本園の教育目標

- ・より強く・・・健やかな身体を育む。
- ・より明るく・・・豊かな感性と安定した情緒を培う。
- ・よりなかよく・・・社会性を身に付ける。

2、本年度の重点目標

新型コロナウイルスによる感染流行下において、園児の健康を守り、なおかつ成長発達を獲得するための保育を実践する。

3、評価項目と取組状況

評価項目	取組状況
感染予防計画	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の指導、練馬区の指導に順守する。 ・日本小児科学会および日本小児医学会の見解を参考する。 ・ウイルスを持ち込まない措置を徹底する。
実践	<ul style="list-style-type: none"> ・園に入場するものは必ず検温及び手指の消毒殺菌。 ・人、物について不必要または断りが可能なものは極力遮断し、園内に入れない、持ち込まない。 ・園児は毎朝家庭での検温、園入室前に手指の消毒殺菌。 ・行事への保護者参加人数を制限する。 ・保護者の来園時間は時差を設定し、密にならないように分散させる。 ・発症者が出現して場合は区の指図に従って対処する。
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の成長発達を最優先事項都市、必要最低限の規制をこころがける。 ・新型コロナウイルスのタイプごとの特性を踏まえて、幼児に及ぼす危険度に応じた機影をその都度精査する。 ・様々な配慮工夫を駆使して園児が蒙る損失を最小限にし、可能な限り例年に比べてそんな色のない保育内容を確保する。 ・あずかり保育は密を避けるため、2号認定を受けた者のみ利用可とする。
特別支援教育への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援が必要な園児を見逃さず、保護者と連携をはかる。 ・公的訪問型支援を利用して、専門家の見解、アドバイスを受け、質問などしながら障害に対する理解を深め、保育支援につなげている。 ・保護者とも積極的に情報交換して、より合理的に子の利益につながる保育を提供するよう努める。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の研修を行い、人間性と保育の専門性を向上させる。 ・牧場研修（吉川牧場）1日。野外活動研修（ウレシパモシリ）8日。平田智久指導講師による園内保育研修 年間18日。幼造研の夏季講習、サンモックの会定期講習参加。
職員間のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・園行事の際などは共有が深まり、園全体がバランスよく調和のとれた活動となっている。 ・保育周辺部の様々な仕事において、欠席した職員の役割を補填できていない。 ・窓の開閉やスイッチのオン・オフなどルーティン化されていることが、個人によ

	ってばらつきがあり、統一されない。
発信	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに対する園の見解とその根拠となった専門家の意見を明示。 ・感染状況は極力開示して保護者の注意喚起を図る。 新型コロナウイルスに限らずウイルス感染症の発症は、メール配信で随時報告をしている。 ・クラスだより・掲示板・ホームページの充実。 ・練馬区子育て支援事業「ねりまこどもカフェ」参加協力。 ・幼造研の夏の研修大会にて発表。 専門誌・教科書及び副読本への取材協力。 ・年間11回、12名の実習生を受け入れ、保育指導の実践を行っている。

4、総合的な評価結果

- ・新型コロナウイルスのオミクロン株になり園児、教職員で発症者があったが、適宜学級閉鎖を行うなど、感染拡大を防ぐことができた。
こども達の育ちにとっては、社会全体が蒙っている影響を同様に受けているが、園における保育生活では例年となんら遜色ない保育が実践できた。
- ・実践している「こども主体の保育」が評価され、多方面から取材依頼を受けるようになっている。公立小学校の教科書、副読本をはじめ、専門誌に多数掲載依頼を受け、受諾している。
- ・研修会や講習に際して園職員が実践指導や助手として依頼を受けることが多くなった。「こども主体の保育」を指導する立場としての役割が求められていることを感じる。

5、今後取り組む課題

課題	具体的な取組方法
2歳プレ保育	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度より、2歳児対象のプレ保育を開始する。 自然活動を親子で体験し、園の保育を理解し園児募集につなげていきたい。
特別支援教育への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・障害についての学習に努め理解を深める。発達支援センターの訪問型支援を要請し、個別の指導を受ける。 ・保護者からの情報を積極的に求め、ともに取り組む姿勢で臨む。
コミュニケーションを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を超えた情報交換をさらに深め、保育の成功例や手ごたえのあった取組を紹介し、共有する。 ・担当する係や分担された作業を互いに手伝ったり、助けを求めたりして、全体として速やかに貫徹できるような関係を築く。 ・得意とする人に遠慮なく指導を求めたり、助けてもらえるよう声を挙げる。
養護	<ul style="list-style-type: none"> ・こども、職員が具合が悪くなったときに横になれる設備が不十分なので充実させたい。
発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載を充実させて実践を公開する。 ・養成校から実習生を受け入れ、実際の保育現場で「主体的保育」を学ぶ場を提供し、指導者を育てるために協力する。

○特記事項

令和4年度に行った研修

- ・主体的保育の理解と実践

講師 平田智久

実施回数 4月2回 5月5回 6月4回 7月2回 9月2回 10月2回
11月2回

内容 当日の園の保育を講師が撮影、保育終了後（15：30～17：00）映像を見ながら実践を検証する。双方向による質疑応答を重ねる。

職員からは、特定の園児や案件に対する質問や助言要請がある。

- ・自然活動への理解を深める

講師 高橋京子

実施回数 春季研修2日間。年間 各学年2回（4日間）

内容 石神井公園または稲荷山公園で実践研修。

自然活動を総合的に指導いただく。

自然物の 形・色・質感・匂い・性質・音など五感を通して紹介。

保育への導入方法を学ぶ。

実際に自らが体験し、体験を通して自然を楽しむことに目覚め、理解していく。

遠足の立案、事前の実踏を研修を兼ねて同行いただき指導を受ける。

- ・ポニー牧場研修

講師 吉川純也

実施回数 春季研修1回

内容 年間7回（14日間）行われるポニー保育の理解と準備研修

埼玉県東松山所在の吉川ポニー牧場において、ポニーを導入した保育に対する事前研修をする。

ポニーの世話、ポニーと実際に触れ合い、ポニーを知り、注意点を学ぶ。

ポニーを保育に導入する意義を理解し、園児に適切な指導ができるように学ぶ。

- ・救急救命訓練

講師 消防署指導員

実施回数 1回

内容 幼児の救急救命方法を学ぶ。

AEDを適切に使用し、救命措置ができるように練習する。

幼児の人形を使用してAEDを使った実地訓練を受ける。

保育中に園児が意識不明に陥った場合、適切な行動がとれるように研修を体験する。